



<例会・理事会>

2月例会 (147回 13名出席)

平成26年2月14日(金)午後2時から進交会館で開催。当日は大雪で交通機関が止まり開催が危ぶまれたが、13名の参加があったため予定通り実施された。例会は会長あいさつで始まり、ゲストと誕生日お祝い品贈呈は雪のため欠席で省略された。各委員会の報告に続き理事会報告として、関東ブロック交流会が2月3日に八王子プロバスクラブの主催で開催された「関東ブロック交流会」に13名で参加したことを報告された。続いて理事会報告では新たに「釣り同好会」の発足を承認、全日本プロバス協議会総会の渉外担当として、大久保会員が推薦されたことと4月の移動例会は1泊で箱根湯本に決定しことを報告があった。同好会報告は、ゴルフ同好会から2月20日にOB会の実施、とパソコン勉強会の報告のみだった。雪も降り続き交通機関も心配されたので早めに閉会となった。

3月例会 (148回 26名出席)

平成26年3月14日(金)12時から横濱相生会館で開催。会長あいさつで始まった。誕生日お祝い品は3月は該当者はなかったが、2月雪のため欠席だった西山節雄会員と乙幡重治会員に贈呈された。特別講演は(株)ユニバーサルファミリー 神奈川営業所所長の長谷川武史氏が「がん保険の上手な入り方」と題して行われた。各委員会の報告に続き、理事会報告として5月の例会は神奈川交流会が同日に開催されることから8日に日程を変更すること、2名の新入会員加入が承認されたことを報告した。各同好会から活動と予定が報告が行われた。釣り同好会からは発足に伴い同好会活動への参加を呼びかけを行った。会員放談は高橋幸司会員が「ユネスコ記憶遺産登録決定 伊達政宗と支倉常長」と題して行った。事務局報告後、月の歌「花」を合唱し中村副会長の閉会の言葉で閉会となった。

4月例会 移動例会 (149回 16名出席)

平成26年4月10日・11日に箱根湯元の「ホテルおかだや」で実施。当日はホテルに午後4時30分に集合し、会議室で例会が行われた。5月9日 第8回神奈川プロバス親睦交流会の為 150回例会は 前日の5月8日に 開催、次期役員決定までの流れなどの報告があり20分程で例会を終了し宴会場へ移動、写真撮影の後、懇親会が中村副会長の乾杯の音頭で始まった。懇親会は平野会員の進行で行われ、歌あり踊りありで非常に盛りあがった。例会副委員長の挨拶で閉会になった後は、幹事の部屋で二次会が行われ夜遅くまで心置きなく懇親を深めた。翌日は13名の参加で「あるこう会」が実施された。箱根山散策と平賀敬美術館での頭と心の体操を行い、そば茶屋「はつ花」で英気を養い散会となった。

5月例会 (150回 26名出席)

第150回 例会は神奈川プロバス交流会と日程が重複したため、5月8日馬車道相生会館で開催された。会長挨拶として、カンボジア旅行で国会の国務長官と面談したことや、カンボジア紙幣のシアンマーク元国王に青木会長が似ていることなどの話があった。続いて宮川会員からゲストの平岡秀夫氏の紹介され、自己紹介代わりにプロ級の歌声の披露があった。新入会員の小西観祐氏(本正院住職：南区南太田)が紹介され会長よりプロバスバッチが手渡された。特別放談は、かねてより故加藤会長がお願いをして、のびのびになっていた老舗海苔店(株)吉田商店の会長 吉田 謙氏が「日本の食生活 海苔物語」と題して創業143年海苔へのこだわりと歴史や商売の裏話を披露された。お土産に「銀座久兵衛寿司」で使用されている海苔頂いた。放談後は委員会報告、理事会報告と今後の行事予定への出席確認をし、月の歌「せいくらべ」を歌って閉会となった。

理事会開催 (会場：進交会館)

2月理事会 平成26年2月21日(金)

：釣り同好会の発足を承認。

：新入会員候補確認

3月理事会 平成26年3月28日(金)

：次期役員の方針確認

4月理事会 平成26年4月18日(金)

：保険加入検討：次期役員について

5月理事会 平成26年5月23日(金)

：総会資料確認：会長経験者の名称





よこはま プロバス通信

No13 2014年6月発行

<http://yokohama1probus.web.fc2.com/TR3.html>
ユーチューブチャンネル purobusyokohama

情報委員会・編集委員

情報委員会所在地：横浜市栄区飯島町
1373番地 電話 045-894-3299
2014年(平成26年)6月13日発行

<交流>

神奈川プロバス倶楽部交流会

5月9日(金)

が七里ガ浜の海を臨む鎌倉プリンスホテルの
で開催されました。当日は天気も良く江の島
、と富士山を背に三々五々会場まで歩き、交
流会は午前11時から神奈川の5クラブ(横濱プロ
バス倶楽部、神奈川・横須賀プロバスクラ
ブ、川崎西プロバスクラブ、横浜港南台プロ
バスクラブ、鎌倉プロバスクラブ)が参加し
総勢62名で開催されました。横浜プロバス俱
楽部からは青木会長をはじめ13名が参加しま
した。交流会は3部構成で進行され、第一部は
鎌倉プロバスソングで始まり武智会長の開会
挨拶、参加クラブの紹介、立川全日本プロバ
ス協議会の立川会長代行の来賓挨拶。第2部は
、八王子プロバスクラブに刺激を受けて結成
した鎌倉プロバスコーラスグループが1年の練
習の成果を披露した。第2部は懇親会となり各
テーブルで名刺交換が始まり時間が進むにつ
れ会話に花が咲いていました。今回の交流の
結果神奈川ゴルフコンペに川崎西プロバスク
ラブと横浜港南台プロバスクラブが今後加わ
ることになり、すべてのクラブが参加するこ
とになりました。交流会散会のあとは藤沢へ
出て、加藤前会長のなじみの「花鳥風月」で
反省会をして帰路につきました。



多摩プロバス10周年記念式典、祝賀会

5月16日(金)

東京多摩プロバス倶楽部の創立10周年記念式典が年5月16日に、桜美林大学多摩アカデミー
ヒルズで開催された。抹茶と和菓子でのお迎えで入場し、参加者は多摩市々長をはじめ総勢
74名だった。増山会長の開会挨拶で開会。来賓として多摩市長、創立母体の多摩ロータリー
クラブ会長、全日本プロバス協議会会長代行から挨拶があった。続いて多摩プロバスクラブ
の多岐にわたる活動報告があった。行政と協同しての活動が特徴的だった。記念講演として
「多摩ニュータウンの建設にかかわって」と題して多摩プロバスクラブ副会長の山田氏がエ
ピソードや苦労話を披露し第一部の式典が終了した。休憩を20分後第2部がスタートし、増
山会長の挨拶、森山全日本幹事長の来賓祝辞と続き、八王子プロバスクラブ会長 荒氏の乾
杯で開宴となった。各テーブルの歓談で盛り上がった。祝賀会途中からは、多摩出身の「フ
ォークデュオ アルビレオ」の歌声を楽しみ午後3時にお開きとなった。お土産に多摩プロバ
スクラブ会員手作りの「いろはがるた」頂きました。

式典終了は、後多摩プロバスクラブの有志と懇親会(二次会)を行ないさらに懇親を深め帰
路につきました。



<連載> 私の横濱物語 ③

横浜の橋あれこれ(上) 吉田橋、六角橋 中村 實(副会長)

河川や湖沼、海峡、道路、鉄道線路などの上空を横断して道路、鉄道、水路を通すための構築物を私たちは橋梁、橋とよんでいる。現在の日本の代表的な橋といえば東京の日本橋川に架かる「日本橋」であろう。慶長8(1603)年に架橋し、翌年には諸街道の起点とされ、明治44(1911)年に現在の橋となった。

ではわが横濱を代表する橋はどこにあるだろうか。歴史から見ると日本橋に匹敵する重要な橋は「吉田橋(中区)」だ。開港後、外国人などが居住する開港場(関内)と、江戸末期に吉田勘兵衛が造成した「吉田新田」(関外)とを結んだのが吉田橋である。本邦初ともされる木造の「有料橋」吉田橋はその後、明治2(1809)年に英人技師R・H・ブランドンによって「鉄橋」に架け替えられた。この橋は橋桁に三角形をとり入れた「トラス構造」鉄(かね)の橋で本邦初の鉄橋であった。横浜の文明開化の象徴として有名になった。現在は橋の下の派大岡川の水は干し上げられて、首都高速道路横濱線が通っている。



吉田橋脇に建つ記念碑



吉田橋の下 現在は高速道路

横浜市地域史跡 吉田橋関門跡 (よしだばしかんもんあと)

平成五年十一月一日 登録所有者 横浜市
安政六年(一八五九)六月二日、横濱が開港となって交易場、貿易港として栄えるにしたがい、幕府は、開港場の施設の充実にあたり、陸路である東海道からの横濱路を開設するとともに、当時、伊勢山下から都橋付近まで入海であったことから木橋を架け、その後、本橋が吉田新田から架橋されたことにより「吉田橋」と呼ばれました。吉田橋が設置されてからは、当地は交通の中心地となり、その治安を図るため橋のたもとに関門を設け、武士や町人の出入りを取り締まりました。関門は、当初港町側に設けられましたが、文久四年(一八六四)二月に吉田町側に移設されました。関内、関外という呼び名はこの時以来で、関内は馬車道側、関外は伊勢佐木町側を指し、その関門は明治四年に廃止されました。
平成六年三月 横浜市教育委員会

もう一つの橋は横浜市民の多くが耳にしたり、文字を見たことのある「六角橋」だ。江戸期から明治22年までは六角橋村、それから昭和2年までは大字名の六角橋、そして昭和2年から同40年までは六角橋町。以後は神奈川区の町名で1~6丁目。かつてはこのあたりに農業用の「神奈川用水」が流れていたようだが、現在は付近には橋を必要とするような河川は見当たらない。町内の宝秀寺に遺る元禄8(1695)年の記録では「日本武尊が東征の時この久応(きゅうおう)の庵の泊り、翌朝の朝食時、五位木(ごいぎ)とよぶ木製六角形の箸を用いられ、これを久応(きゅうおう)賜わった。後日この箸に天照大神・日本武尊と記し日夜礼拝したことから町名を六角箸村とし、後に六角橋村に改称というが根拠資料は不確かといわれている。



バス停 六角橋



【カンボジア旅行】

4月24日から4月28日にかけて、青木伊平、加藤豊、保谷英雄、岡賢治、岩田慎一の5名が昨年に続いてのカンボジアを訪問し、観光のほか、総理府でシェファン大臣と会談や、孤児がいる水上の2つの小学校それぞれに米60Kg 1袋と飴を送った。

【カンボジア旅行行程】

- 24日 0:40分羽田→ バンコック→ プノンペン
- 24日 カンボジア市内、オールドマーケットなど見学
- 25日 総理府にてシェファン大臣と会談
午後会食及びKPCの校長先生から自転車贈呈感謝状、夜大臣と合流し食事会
- 26日 プノンペンからシェム リアアップへ飛行機で移動。オールドマーケット買い物
夜はナイトマーケットで食事、見学、マッサージ
- 27日 アンコールワット見学、午後はプールにて、夜はナイトマーケットで食事
- 28日 トンレサップ湖見学。水上の孤児のいる2校に米60Kg 1袋づつと飴、余ったリエルを配る
- 28日 17:40 シェム リアアップ → バンコック→ 29日 羽田

【カンボジア旅行 寄稿】 アメ玉一個

カンボジア（プノンペン&シェム リアアップ）たぶん小生の小学校当時の町並みであると想像していた。しかし思っていた以上の都会であり若者が多い活気ある町であり、開発中の観光地でありました。ただ忌まわしい過去の歴史50~60才の知識層が大量点殺され中間がなく国の伝承が途切れてしまっている事です。自分自身今回の目的は、世界遺産である遺跡アンコールワットとタプロームを見る事が主とした旅でしたが、もっとも印象に残った事は孤児が学ぶ水上小学校こ米60キロとアメ玉を持参し訪問したことです。水上小学放で目にした事は、（アメ玉一個）仲間が手渡した後、また渡そうとすると、必ずアメ玉を見せてもうすでに頂いたありがとうと言い二個目は受け取らない事でした。



・・・ 保谷英雄

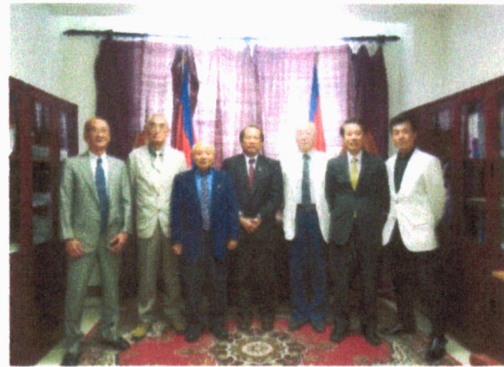


今、ニュースに上がる利益質上主義・自分のためなら何でもありの大人の背中を見ている隣国の子供たちは一個のアメ玉で済むか、貰いどくで渡せば幾らでも、もしくは見向きもしないのでは？。今回訪問した小学校の子供達が素直に大きくなってくれる事を願っています。近い将来、日本・中国・韓国等、カンボジアは新たな生産拠点として焦点を合わせられつつあるようです。支援国が巨大プロジェクトを組み、大きな見返りを求める自国中心の開発であるかどうか見極めつつ、カンボジア政府はあまりに急激な開発を進めない方がよいのではないのでしょうか。今回予定外中小学校訪問のような小さな支援を私達はコツコツ続ける事が必須ではないのでしょうか。秋には羽田発プノンペン着の直行便が決定しているそうです。約6時間のフライトで入国できる隣国にもっと濃い交流が出来ればと思います。



【カンボジア旅行への経緯】

昨年、岡賢治中心に、岩田慎一両名が所属している一般社団法人日本アセアン経済友好機構（AJBFO）で放置自転車250台をテックサン大臣経由でソクアン副首相に贈呈。この目的は自転車を通して就学率の向上（通学片道3時間）に寄与しています。この贈呈からカンボジア政府と友好を深める中、昨年、シェファン大臣とも交流が生まれました。



シェファン大臣と話をしていく中で、日本語教育があれば、カンボジアと日本はより身近な関係となることを実感しました。また、カンボジアでの日本語教育ができれば、両国の友好を深め、カンボジアに進出する企業の手助けができるのではないかと。また、高齢化、少子化で、日本が必要とする労働力の確保ができないか。このような背景から昨年10月、一般社団法人日本アセアン経済友好機構（AJBFO）を立ち上げ、盛大なレセプションをシェファン大臣と2名の大臣が同席しプノンペンで行うことができました。1月にはシェファン大臣が日本に来日されるなど大きな絆が出来ました。今年も250台の放置自転車をコンポート州立大学とシェファン大臣に贈呈しました。1年半に渡り活動し、カンボジアの方々に日本語教育が出来るようにと大学の教室確保折衝。日本語教育海外ボランティアとの提携など枠組みや、現地のカンボジアの方々とチャンネルづくりが出来つつあります。ゆくゆくは日本語をできる学生を育て、日本への留学、就職等を斡旋できればと考えています。ビジョンは大きいのですが、まだ、微力なAJBFOです。当面はこの活動に賛同していただける賛助会員を募っています。AJBFOはクリアで透明な運営をしてみたいので皆様のご支援をよろしくお願いいたします。今回のカンボジアでの旅行で、総理府でシェファン大臣と青木会長、加藤豊さん、保谷さんも会い親睦を深めることができました。また、トンレサップ湖では孤児に米60キロ2袋を贈呈しました。残された人生少しでも日本の将来の布石ができる仕事をして行こうではありませんか。

【カンボジア情報】

【一般事情】

面積18.1万平方キロメートル（日本の約2分の1弱）

人口…14.7百万人（2013年）

首都…プノンペン、

民族…カンボジア人（クメール人）が90%

言語…カンボジア語

宗教…仏教（一部少数民族はイスラム教）



【経済状況】

農業、縫製業、建設業、観光業が産業の4本柱。2009年の経済成長率は世界経済危機の影響により-2%となったが、翌年には6%台に回復し、2007年から2011年までの5年間の実質GDP平均成長率は6.0%を記録している。現在の経済成長は、縫製品や靴の輸出増加が大きく貢献しているが、農業は2011年9月の洪水で大きな被害を受けたにも拘わらず同年3%台で成長し（予測値）また、観光業もアジアを中心とした観光客が順調に増加している。インフレ率については、近年安定基調にあり、2012年平均も2.9%である。経常収支及び財政赤字は慢性的に赤字であり、2012年（予測値）では、前者は10.0%（GDP比）、後者は3.2%（GDP比）である。近年海外直接投資が順調に増加しており、今後も安定した経済成長が見込まれている。



よこはま プロバス通信

No13 2014年6月発行

<http://yokohama1probus.web.fc2.com/TR3.html>
ユーチューブチャンネル purobusyokohama

情報委員会・編集委員

情報委員会所在地：横浜市栄区飯島町
1373番地 電話 045-894-3299
2014年(平成26年)6月13日発行

全日本プロバス協議会報告

現在、森山幹事長と青木会長（総会実行委員長）が各地のプロバスクラブ訪問し、全日本プロバス協議会の啓蒙活動を実施中。

5月14日～15日 九州(博多) 北部九州・南部九州・壱岐

6月11日～12日 北陸(石川県・松任)

7月14日～15日 北海道(旭川、札幌、青森)

8月6日～7日 五所川原

<同好会活動>

<カラオケ同好会>(世話人:富永和男)

毎例会後に「パラダイス」または「シェイシェイ」で開催しています。会費は¥3,000程度午後7時頃には終了します。奮って参加をお願いします。



<ゴルフ同好会>(世話人:関口尚親)

第3回神奈川県プロバスクラブゴルフコンペ3月24日(月)横浜9名、横須賀7名、鎌倉4名 計20名の参加で優勝姉ヶ崎カントリー倶楽部で開催。優勝:関口洋子氏、準優勝:関口尚親氏でご夫婦でのワンツーフィニッシュでした。

6月9日 太田双葉カントリーで8名参加し第7回ゴルフコンペを実施した。優勝は富永和男氏。前日は富永氏の別荘(足利)に泊まりシンポジウムを開いた。

<パソコン勉強会>

(世話人:須藤照夫)

パソコンを知らない人のための勉強会です。分からないことを一つ一つ解決していきます。

毎月第2水曜日午後(13:00開始)横浜駅西口県民サポートセンターの会議室で開催。会費は¥500(会場費とお茶代)

<歩こう会>(世話人:森山功)

4月:移動例会に合わせて箱根道を散策。

5月:釣り同好会のバーベキュー会場まで八景島から歩くが、途中シーサイドラインに「一駅だけ乗ろう会」になった。



<釣り同好会>(世話人:松下尚雄)

5月30日に野島公園で、釣り同好会発足記念のバーベキュー大会を14名参加で実施。大潮のため潮がひいて釣りは難しいので、バーベキューと潮干狩りを行い大いに飲んで食べて楽しみました。次回は魚を釣りに行きます。



編集後記: プロバス倶楽部入会してまもなく、訳も分からず情報委員長を引き受け1年が過ぎました。皆様のご協力して頂きなんとか乗り切ることが出来ました。文章を書く難しさを実感した1年でした。ありがとうございました。